

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 気仙沼市立津谷中学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校, 各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0341

宮城県気仙沼市本吉町津谷桜子2番地

E-mail tsuya-chu@kesenuma.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

幼児児童生徒数 男子 91名 女子 79名 合計 170名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

当校では,

- ① 自ら課題を発見し探究する力  
(課題発見能力, 計画力, 判断力, 課題解決能力, 情報活用能力 など)
- ② 積極的に人とかかわり合う力  
(コミュニケーション能力, 思いやり, 他から学ぶ力, 感動する心など)
- ③ 分かりやすく表現し伝える力  
(表現力, 自己・相互を評価する力, 発表の仕方を工夫する力 など)

をESDで育てたい資質・能力として設定し, 学習を行った。

具体的な実践事例としては以下の通りである。

第1学年	第2学年	第3学年
目標「他とのかかわりを通して在り方・生き方を考えよう」		
学習テーマ「人・自然」	学習テーマ「地域・進路」	学習テーマ「地域・社会」
1 地域調べ ○課題解決学習を通して実践力を育て, 学習や生活に生かす姿勢を身に付ける。	1 伝統芸能伝承活動 ○地域の方々や3年生から伝統芸能を学ぶことで, 郷土を愛する心や表現	1 伝統芸能伝承活動 ○伝統芸能を学び, 郷土に生きる自己を意識し, 表現力を養う。 ○下川内保存会, 小泉

<p>○地域社会を見学，調査，発表を行い，体験的学習を行う。</p> <p>2 職場体験 ○地域の職業に目を向け職業の内容や特徴を知ること，職業への関心を高める。 ○適切な職業観と勤労観を身に付ける。</p> 	<p>力，コミュニケーション能力を養う。</p> <p>2 職場体験・高校訪問 ○地域の職業に目を向け職業の内容や特徴を知ること，職業への関心を高める。 ○適切な職業観と勤労観を身に付ける。 ○進路への考えを深め，高校の特色や高校生活について調査する。 ○インタビューや調査活動を通して，課題を追究する能力を高める。</p> 	<p>浜太鼓保存会の方々との交流を通して，かかわり合う力やコミュニケーション能力を養う。</p> <p>2 ボランティア体験 ○社会についての課題を自ら発見・設定し，地域・社会のために尽くす姿勢を培う。 ○人々との交流を通して，視野を広げ自分の生き方を考える。</p> 
---	---	---

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍, ウェブサイト, パンフレットなど具体名）

「わたしたちの本吉町」「本吉町誌」を活用し、地域の伝統文化、文化遺産の理解の一助とした。
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

ユネスコスクールとしての活動を本校では ESD の活動と結びつけ主に総合的な学習の時間で行っている。本校での ESD のねらいとして、「①地域社会と直接かかわることで、地域社会のすばらしさや課題を肌で感じながら、現状や将来のあり方などを見つめさせる。②地域社会との主体的なかかわりを促し、持続的な活動に参加する態度を養う。③生徒一人一人のコミュニケーション能力や学んだことを工夫して発表することができる表現力を高める。」を掲げ学年毎に指導内容を定めた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

組織的かつ継続的な活動に取り組むため、本校では研究部を中心に職員会議、校内研修会で共通理解を図り、実践を行った。実践する際に気をつけたことは、総合的な学習の時間に活動時間を設定しており、主な活動単位が学年単位であるため、学年間の連絡を密にすることで組織的かつ継続的に活動できるよう配慮した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

活動の質の向上を図るため、学校活動の内部評価を総合的な学習の時間と関連させ項目を立てて評価を行った。その結果については、学校運営反省会時に報告し、全職員で成果と課題について共有した。その中で、特に伝統芸能伝承活動を行う際、地域の指導者、活動回数の確保が課題としてあげられた。今後は学校側の学習の取組の情報を積極的に発信することで地域の指導者を確保し、地域と学校が協力しながら地域の伝統文化を伝承していく必要性を共通理解しながら指導に当たっていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

ESD の活動成果については学校だよりをはじめとする各種通信のほか、体育祭や地域行事への参加によって伝統文化伝承活動を実演した。また、文化祭においては職場体験、高校訪問、ボランティア体験活動を保護者や地域の方々に活動の様子を報告した。また学校だけではなく、PTA 広報誌にも掲載するなどより多くの地域の方々に情報を発信した。学校の様子を様々な媒体で発信することで効果があがったと考えられる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

伝統芸能伝承活動はもちろん職場体験においては主に通学区域内に限定することで、事業主との交流、ネットワークの形成が図られたと考えられた。学校側の要望に応じてもらえることはもちろん、それ以上に地域の子どもを育てる熱意にあふれた協力を得ることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

今年度、小泉中学校との統合1年目ということもあり、国内外のユネスコスクールとの交流は行えなかった。将来的には、より効果的なESDの活動にするためにも国内外のユネスコスクールとの交流のためのネットワーク構築をしていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

伝統芸能伝承活動における地域の指導者、職場体験等における事業者や従業者との交流によって生徒のコミュニケーション能力が高まった。また地域の方では学校に目を向ける一端となり、地域と学校が連携して子どもを育てる大切さを気づくきっかけとなったのではないかと考える。さらに先輩が後輩に技能を伝えるなど校内の継承活動も活発になった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

統合2年目ということで、両校で行われてきた地域伝統文化の学習、伝統芸能継承活動をさらに活発にさせていきたい。具体的には、平成29年度と同様に1年生は「地域調べ」「職場体験」、2年生は「伝統芸能伝承活動」「高校訪問・職場体験」、3年生は「伝統芸能伝承活動」「ボランティア体験」を実践していく。その中で、地域社会と直接かかわることで、地域社会のすばらしさや課題を肌で感じながら、「知りたい」「学びたい」という意識を高揚させるための工夫を行っていきたい。